

優秀賞

## 祖母からの教訓

広島県 広島県立呉三津田高等学校二年 小泉 結生

私は、幼い頃から、父の母である祖母と一緒に暮らしています。しかし、正直に言えば、祖母との関係はいつも円滑とは言えませんでした。祖母はいわゆるおせっかいな性格で、私のすることに何かと干渉します。幼い頃はそれを鬱陶しく思うことはありませんでしたが、中学生になる頃から祖母の過干渉な性格にイライラすることが増えていきました。祖母は、リウマチという病気を患っており、年をとっているのもあって手足が不自由です。祖母は家事を思うように進めることができないため、私たち家族は祖母が家事をしようとすると率先して手伝うようにしています。しかし、私たちのこのような行動を祖母は嫌い、自分でこなそうという強い意志を持っていくず、不思議に思っていました。

ある日、私が学校から帰ってくると、家の和室の障子が全て貼り替えられていました。細部の方をよく見ると、のりがベタベタしていたり、和紙が木枠からズレていたりと、お世辞にも綺麗とは言い難い出来栄でした。私

はすぐに、祖母がやったんだなと思いました。障子を貼り替える作業は大仕事で、相当な筋力や体力を必要とするため、一人でこれをこなすのはかなりの負担がかかります。ましてや七十代後半にさしかかる祖母がやるとなると、体に大きな負担になるのは分かりきっていました。祖母は以前も、劣化が進んだ障子を一人で貼り替え、肩を痛めていました。だから次に貼り替えるときには、父や母と協力して休暇のときにも取り組もうと話し、祖母に一人ではやらないよう忠告していました。しかし祖母はまたも一人で障子の貼り替えをして、案の定足腰を痛めてしまっていました。一人でするなどという忠告は私たち家族からの善意なのに、それを拒否するかのような祖母の行動に理解ができず、私は正直イライラして祖母に尋ねました。

「なんでおばあちゃんはそんなに一人でやりたがるの？ 私たちに任せておけばいいじゃん。」  
すると祖母から私の予想とは反する答えが返ってきました。

「みんなに頼るのが申し訳ないんよねえ。」

私は、祖母は私たちに頼るより自分でやった方がいいという考えで、自分一人でやりたがっているのだと思っていました。しかし、祖母は私たちに頼ることを申し訳ないと感じ、自分が私たちに何かをしてあげなければという使命感を持っているからこそその行動だったのだと分かりました。私が鬱陶しく感じていた祖母の過干渉やおせっかいな性格も、彼女の使命感がその行動の背後にあったのだと理解しました。恐らく祖母は、私たちへ尽くすこと、一人でやるという行動を通して、彼女自身の存在価値の証明を感じていたのでしょうか。ただの過干渉という一面を超えて、家族への愛情と責任感が宿っているのだと思います。

その日以降、私は祖母に対する感情が変わりました。感謝だけでなく、祖母が抱える思いに対する理解も生まれ、祖母のおせっかいな行動も、私たち家族への愛情の表れであることを理解し、彼女の行動を否定することなく受け止められるようになりました。

この出来事を通じて、私は大切な教訓を学びました。人との関わりの中には、見えない深い思いや想いが隠されていることがあります。私たちはその表面だけを見るのではなく、相手の心に触れ、その想いを理解する努力を怠ってはなりません。祖母の行動は、私に家族や大切な人との絆の尊さを教えてくれました。今では、祖母の



おせっかいな行動も怒らず対応することができません。以前よりも彼女との時間を大切にできるようになりました。私がこのように変わることができたのは、彼女の心の奥にある想いを理解したからこそだと実感しています。私は祖母からの教訓を胸に、これからも家族との絆を大切にし、人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。